

～ 令和7年度 愛知県アレルギー疾患医療拠点病院の取り組み ～ 病院食における食物アレルギー対応の実態調査:実施報告

【実施スケジュールと内容】

時期	フェーズ	実施事項(アクション)
4月～7月	企画・周知	アンケート内容の作成 第1回連携会議・連絡協議会:調査の実施を報告
8月	内容確定	調査内容の確定 (施設対応状況の調査につき倫理申請不要を共有)
9月	調査実施	愛知県内 6拠点病院を対象に実態調査を実施
10月～11月	集計・分析	回答のまとめ、および詳細把握のための追加調査
12月18日	多職種連携	第2回連携会議:医師・管理栄養士が参画、結果を基に意見交換
2026年 1月22日	方針策定	拠点病院の管理栄養士による意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> 調査項目の解釈を統一したうえで、回答内容を再確認・修正 現場目線での課題抽出と解決策を協議
2月19日	報告・展開	第3回連携会議:調査結果(確定版)と課題解決方策についての報告
3月 8日	学会発表	第7回日本アレルギー学会 東海地方会にてこの取り組みを発表
7月11日	学会発表	第42回日本小児臨床アレルギー学会にてこの取り組みを発表予定

本調査により、愛知県内6拠点病院における食物アレルギー対応の実態と課題が浮き彫りとなった。本報告では、抽出された課題を整理し、今後の対応方針について検討した結果を報告する。

病院食における食物アレルギー対応の実態調査(2025年度)

対象:愛知県アレルギー疾患医療拠点病院6施設

調査内容

- ・食物アレルギー情報の取得方法
- ・病院食における対応方法・対応内容の判断
- ・提供工程・体制・業務負担について
- ・インシデント/アクシデント調査

期間:2025年10月

解答率:100%

調査の目的・概要

- 【背景】
- 近年食物アレルギー患者は増加傾向にあり、小児のみならず成人対応が必須
 - 安全な病院食提供が課題だが、過度な対応は病院の負担となる
 - 学校・保育施設におけるアレルギー対応指針は存在するが病院食提供におけるアレルギー対応指針は存在しない

<参考文献> 食物アレルギーの栄養実施計画の手引き2022

病院給食における対応の基本原則

- 完全除去対応 ・医師の診断に基づき、過度に複雑な対応は行わない
- 食物アレルギー対応専用スペース/調理器具/食器保管庫/調理員が確保できるとよい



- 【目的】
- 病院食におけるアレルギー対応の現状を把握し、課題を明らかにする
 - 将来的には病院食事提供におけるアレルギー対応指針の基盤、土台を提示する

給食業務形態と体制

施設名/業務体制	形態	病院全体の管理栄養士数	病院食提供に関わる人員					2024年度 1日当たりの給食提供数		
			病院食提供に関わる管理栄養士数	栄養士数	調理師数	調理補助数	その他	全体数 (人員1人に対する割合)	食物アレルギー対応食 年間平均 (全体数に対しての割合)	食物アレルギー対応食 ピーク時
A病院	一部委託	22名	76名					1936食/日 (25.5食)	137食/日 7.1%	207食/日
			12名	5名	9名	10名	40名			
B病院	一部委託	19名	83名					1500食/日 (18.1食)	170食/日 11.3%	210食/日
			5名	10名	7名	20名	41名			
C病院	直営	8名	32名					820食/日 (25.6食)	90食/日 11.0%	130食/日
			8名	2名	19名	2名	1名			
D病院	一部委託	49名	202名					3161食/日 (15.6食)	240食/日 7.6%	270食/日
			49名	15名	32名	4名	102名			
E病院	一部委託	23名	48名					1800食/日 (37.5食)	137食/日 7.6%	276食/日
			23名	0名	23名	2名	0名			
F病院	全委託	18名	34名					290食/日 (8.5食)	25食/日 8.6%	40食/日
			18名	2名	1名	13名	0名			

どの施設も日常的にアレルギー対応を行っている。ピーク時は多いと15~16%がアレルギー対応食

インシデント・アクシデントについて

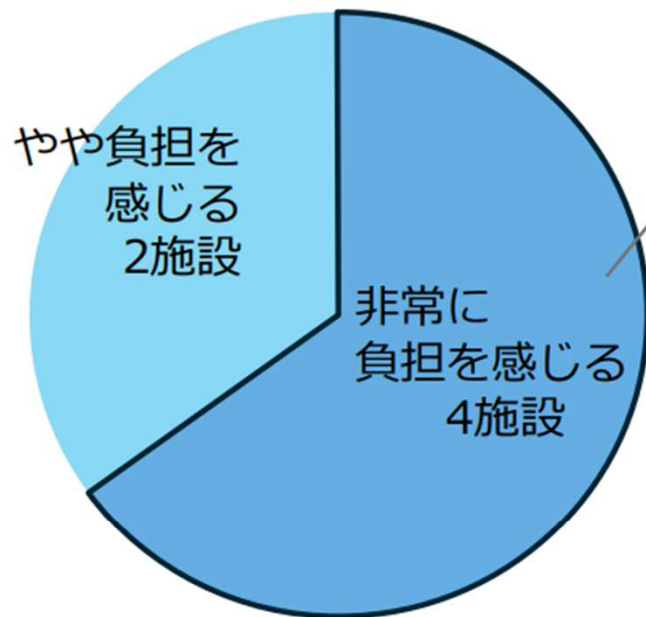
2024年度のアレルギー対応食におけるインシデント・アクシデント例についてレベル別件数

施設	レベル 3b (濃厚な処置や治療を要した一過性の高度障害)	レベル 3a (簡単な処置を要した一過性の中等度障害)	レベル 2 (処置不要の軽度一過性障害)	レベル 1 (実害なし/影響の可能性)	レベル 0 (実施前に発覚)	報告数の最も多い部署
A病院	—	—	—	6	3	看護部
B病院	—	—	1	5	3	看護部
C病院	—	—	—	3	3	食事提供担当部署
D病院	—	—	—	—	6	食事提供担当部署
E病院	—	—	—	3	—	食事提供担当部署
F病院	1	—	1	6	5	看護部

主な原因: 患者情報の入力漏れ、情報入力時の誤入力、献立指示の誤り、配膳時の誤りなど

食物アレルギー対応に対する食事提供現場の負担

- 多項目対応の別献立作成、個別対応調理
- 使用している食材のリニューアルや終売などの管理
- 緊急入院時、オーダー締切直前のアレルギー追加は調理、配膳、確認全ての工程において作業量が増え、
他業務に影響がでる



- 手間、食材費、緊張感
- 多抗原除去、宗教対応時には1人が個別で献立を作成し
複数の管理栄養士による確認している
> 対応数が多い時、ピーク時や長期休暇前は大きな負担となる
- 患者から訴えが多い、時間がかかる、手間が多い割に加算がない
- 患者からのクレーム
- 時間をかけ、細心の注意を払って提供した食事を食べずに
コンビニで買ったと聞かされた
- 患者の思考や思い込みとの区別ができず、判断ができない
> 結果全てに対応せざるを得ず、負担が大きい

アンケート調査とその後の議論から明らかになった課題と解決策

【情報の問題】

- 患者申告と診断の区別が不明確
自己申告か診断に基づくものかが判別しにくく、対応の精度に影響している。
- 職種間で取得するアレルギー情報の不一致
医師・看護師・栄養科など職種ごとに取得する情報に差異や解釈の揺れが生じており、必要な情報が統一的に整理されていない。
- 共通認識のずれ
「どこまで対応すべきか」
「診断に基づくアレルギーかどうか」の確認がなく
対応レベルのばらつきや過剰対応の要因



【解決策】

アレルギー情報の
正確性確保と単純化

【運用の問題】

- 病院食対応部門への対応負荷の過度な集中
食札管理、献立調整、代替食対応、加工食品確認など、運用上の負荷が病院食対応部門に集中しており、結果としてインシデントリスクが高まっている。
- 本来対応不要なケースへの過剰対応
診断の有無が不明確な自己申告に対しても厳格な除去対応を行っており、必要性の低い業務が増加している。
- 運用上の矛盾・非効率性
例：表示義務のない「注意喚起表示(コンタミ情報)」まで確認対象としており、現場負担が増える一方、効果的なリスク低減には必ずしもつながっていない。



【解決策】

安全を最優先としつつ、
業務運用のシンプル化を目指す

【教育の問題】

- 職種間での理解・判断基準の不一致
アレルギー対応には医師・看護師・栄養科・委託業者など多数の職種が関与する一方、各職種における知識・判断基準に差異があることで、対応のばらつきが生じている。
- 病院食対応部門業務に対する理解不足
他職種が、病院食対応部門で実際に行われているアレルギー対応(献立調整、食材確認、代替対応等)の負荷を十分に理解していないため、より安全側に倒した要求や登録がなされ、結果として病院食対応部門の対応負担が過度に増加している。
- 教育体制の不足による過剰対応の発生
共通教育や標準化された研修が十分でないため、「何をアレルギーとみなすべきか」「どのレベルまで対応すべきか」について組織としてのコンセンサスが形成されにくく、過度な負担やリスク増大の一因となっている。



【解決策】

関連スタッフにおけるアレルギーに
関する一定レベルの理解を確保する

今年度事業のまとめから見えてきたこと

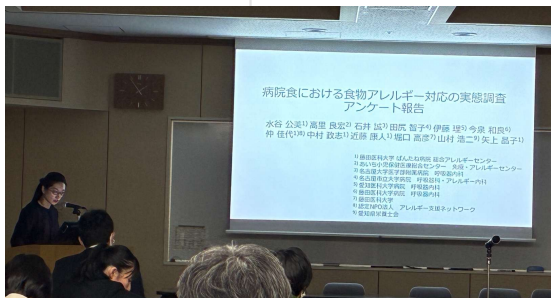
◆今年度の事業で把握できた「課題」(情報、運用、教育の問題)を解決することで、医療施設において病院食における安全なアレルギー対応が実現され、県の(さらには国内の)安全な病院食運営を実現できると期待される。

⇒ 今回の取り組みは、複数拠点病院で病院食のアレルギー対応を詳細に調査した国内初の取り組みである。今回の事業をベースに、標準的な安全対応策をまとめることができ、さらに愛知県拠点病院での実施・検証が進めば、“愛知県”発、わが国の病院食におけるアレルギー対応指針の策定、にも繋がる可能性がある。

2026年3月8日
第7回日本アレルギー学会東海地方会 一般演題にて発表

病院食における食物アレルギー対応の実態調査 アンケート報告

水谷 公美¹⁾ 高里 良宏²⁾ 石井 誠³⁾ 田尻 智子⁴⁾ 伊藤 理⁵⁾ 今泉 和良⁶⁾
仲 佳代¹⁾⁸⁾ 中村 政志¹⁾ 近藤 康人¹⁾ 堀口 高彦⁷⁾ 山村 浩二⁹⁾ 矢上 晶子¹⁾



- 1) 藤田医科大学 ばんだね病院 総合アレルギーセンター
- 2) あいち小児保健医療総合センター 免疫・アレルギーセンター
- 3) 名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科
- 4) 名古屋市立大学病院 呼吸器科・アレルギー内科
- 5) 愛知医科大学病院 呼吸器内科
- 6) 藤田医科大学病院 呼吸器内科
- 7) 藤田医科大学
- 8) 認定NPO法人 アレルギー支援ネットワーク
- 9) 愛知県栄養士会

2026年7月11日～12日
第42回日本小児臨床アレルギー学会 一般演題にて発表予定

愛知県アレルギー疾患医療拠点病院を対象とした 病院食における食物アレルギー対応の実態調査 —PAE管理栄養士の視点から—

仲佳代¹⁾²⁾ 水谷公美²⁾ 中村政志²⁾ 石井 誠³⁾ 田尻智子⁴⁾ 伊藤理⁵⁾ 今泉和良⁶⁾
高里良宏⁷⁾ 近藤康人²⁾ 堀口高彦²⁾ 山村浩二⁸⁾ 矢上晶子²⁾

- 1) 認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク
- 2) 藤田医科大学ばんだね病院
- 3) 名古屋大学医学部附属病院
- 4) 名古屋市立大学病院
- 5) 愛知医科大学病院
- 6) 藤田医科大学病院
- 7) あいち小児保健医療総合センター
- 8) 愛知県栄養士会